



さとう ひろゆき 佐藤 広幸 議員

高齢者の屋根の雪下ろしについて

地域の共助をサポートしています



屋根の安全確保は万全にしたい

【質問】 町の高齢化が進み家族の形態も変わってきている中、冬期間高齢者が一人暮らしや夫婦二人暮らしで生活する世帯が増えてきています。今後さらに高齢化が進んでいくと思われる中、屋根の雪下ろしは危険が伴う作業となり、対策が必要だと考えますが町長はどの様に考えているか質問します。

【町長】 町は雪対策として新築住宅に加え既存住宅への融雪設備工事も可能な融雪設備導入補助金や雪下ろし作業の安全性を確保するための工事や、屋根の工事が行える住宅リフォーム支援事業補助金を備えています。また、まちづくり課では高齢者世帯の屋根の雪下ろしを含め、地域で本当に困っている除排雪問題の解決に向けて、地域にマッチした自由度の高

【質問】 本年度の予算に大堰改修工事の測量費が1400万円計上されています。

【町長】 町内会で検討し、まちづくり課へ相談してほしい。大堰改修工事による冬季間の通水は使用に支障のない工事を要請

【質問】 規定を基に屋根の雪下ろしに補助金を出すべきではないか。

【町長】 い取組みができる地域支援とあわせ、除排雪活動支援事業があり地域の共助をサポートしています。屋根の雪下ろしは、高所作業の場合がほとんどで高齢者が行う場合は、危険度が増すものと認識しており、できれば高齢者がこうした作業に携わることなく、冬期間を安心安全に暮らして頂くことが理想であると思っています。

【町長】 今年度から大堰改修工事の整備計画策定を行い、早ければ令和9年度から工事着手になると思われます。

大堰から取水し除雪に活用している町民から冬季間通水されるか心配の声が上がっています。現在進行中の計画の内容と冬季間の通水の考え方を質問します。



早期改修工事が望まれる大堰

冬季間の通水の考え方については、大堰は流雪溝の水源となっており、冬季間に水を止めることはできないと考えています。整備計画策定から、流雪溝への通水を前提とした工事や仮設を選定し、事業主体の県に対して、流雪溝の使用に支障のない工事実施を要請していきます。



今後5年を考える各町内で実施されたワークショップ

【質問】 森町長が、にぎやかな過疎地域を目指しての思いを込め、第7次町総合発展計画が令和2年度から概ね10年間、短期アクションプランは5年間の計画で実施されています。長期構想については、

【町長】 基本目標1の福祉健康、いつまでも元気で笑顔が溢れるまち、基本目標2の教育文化、町の「宝」を守り育てるまち、

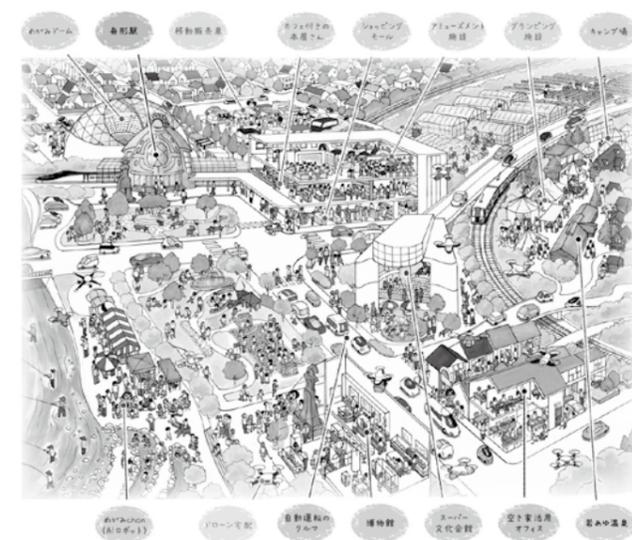
本目標7項目及び重点プロジェクト4項目について、達成度を町長に伺います。そこで、現時点での基本目標7項目及び重点プロジェクト4項目について、達成度を町長に伺います。

まちの将来像を実現するため、短期アクションプランは長期構想の基本目標ごとに、中期的視点に立って「基本施策」を掲げています。計画がスタートし、4年が経過しようとしています。2月に予定されており現期中での森町長への一般質問は今定例会が最後になります。

基本目標7については、各種事業に取り組み、それらを支える重要な基盤となる部分でもあることから今後も引き続き健全な財政運営に努めてまいります。

四つの重点プロジェクトの「100歳元気プロジェクト」、「少子化対策

基本目標3の産業経済、地域の魅力・活力を生み出すまち、基本目標4の地域づくり、つながり支え合うまち、基本目標5の防災安全、暮らし・生命を守るまち、基本目標6の、生活環境、快適な暮らしを叶えるまちの、6つの基本目標については、目標としている数値と現状を比較すると、達成度は概ね高く推移していると思います。



町民の皆さんから寄せられた絵画、作文をもとに作成した未来の舟形町

子ども育成プロジェクト、「定住・移住プロジェクト」、「デジタルファーストプロジェクト」については、ある程度の成果が出ており、評価できていると思います。今後、出産祝い金の増

額や婚姻数を増やす対策などについても検討しつつ、引き続き第7次町総合発展計画の目標達成に向けて町民の皆さんとともに取り組んでまいります。



いとう きんいち 伊藤 欽一 議員

第7次舟形町総合発展計画の達成度は

概ね良好に事業が展開している